

# Infant Scientist

## 赤ちゃん・ちびっこ通信



日頃は「赤ちゃん研究員」にご登録、ご協力をいただき、まことにありがとうございます。お忙しい中、調査室までお越しくくださった保護者の皆さま、ご自宅での調査にご協力いただいた皆さま、まことにありがとうございます。今回は残念ながら予定があわなかった方、また調査の対象年齢の都合で残念ながら調査をお願いできなかった方には、たいへん申し訳ありませんでした。「赤ちゃん研究員」の皆さまのお力添えで、14年目となる九州大学「赤ちゃん・ちびっこ研究員」には、3月現在で477名の方（ご卒業された方も加えるとこれまで1856名の方）にご登録・ご協力を頂いています。

調査を通して得た発見や貴重な情報を、学会で発表したり、論文や文章にまとめたりして、時間はかかりますが「きちんと」お伝えすることをスタッフ一同心がけております。また、その発見や知識が、赤ちゃん・お子さん、保護者の方にご協力いただいたことによって成り立っていることを忘れずに、日々の調査・研究にあたりたいと考えています。

今年度は、下記にご紹介するような調査を行ってまいりました。また、今年度から「赤ちゃん・ちびっこ研究員」に加えて「子ども研究員」（小学校入学～卒業まで）の募集を始めさせていただきます（詳細は「研究室からのお知らせ」をご参照ください）。今後ともどうぞよろしく願っています！

### 今年度ご協力いただいた&現在進行中の調査をご紹介します

昨年度と今年度ご協力いただいた調査は、「第31回国際心理学会」（横浜 2016年7月）、「日本赤ちゃん学会第16回学術集会」（同志社大学 2016年5月）、「2017年ブダペストCEU認知発達学会（ハンガリー・ブダペスト 2017年1月）」等の学会・研究会で順次発表させていただきました。

#### 赤ちゃん研究

##### 乳児は自分と他者の顔をどのように見ているのか

担当：新田 博司 対象児：7～12ヶ月児

私たちは自分自身に対して様々な認識や意識をもっています。例えば、鏡を見て髪の毛をセットしたり、歯を磨いたりします。それは鏡に映る鏡像が自分自身であると私たちがわかっているからです。しかし、赤ちゃんにおいては、鏡に映る自己の鏡像、撮影された自分の動画、そして、自分の顔が写った写真を見て、「自分である」と認識できるようになるまでいくかの発達的な段階を経ることになります。今回の調査では様々な方向を向いた顔写真や同じ年齢の赤ちゃんの顔と混ざった自分の顔の写真を見て、お子さんがどのような反応をするのかを調べ、自分と他者の顔をどのように見ているのかを検討したいと考えております。

##### 子どもは他者の行動をどのように評価しているのか

担当者：若藤礼子 対象：1歳児

「善い行い」と「悪い行い」とを区別したうえで、周りの人と戦略的に関わっていく能力は、社会生活において非常に重要ですが、行動に対する評価は行動の裏にある事情や文脈によって変化する場合があります。例えば、正義のヒーローが敵役を攻撃する場合、攻撃すること自体は“悪いこと”ですが、弱い人を守るという“正当な理由”があればその攻撃は“善いこと”と評価されるといったことが挙げられます。このような行動の裏にある事情や文脈を理解する能力は、子どもにおいても見られるのでしょうか？今回の調査では、文脈の異なるいくつかの種類の動画を使って、子どもが他者の行動をどのように評価しているのか調べました。

#### ちびっこ研究

##### 幼児はどのようなときに模倣するのか

担当者：宇土裕亮 対象：3～5歳児

子どもにとって道具の正しい使い方や、道具を使うルールなどを学習することは大切なことです。それらは大人が教えることもあります。大人がやっていることを観察して、子どもが自ら学習することもあります。今回、「あっ」や「えい」といった、普段私たちが何気なく口にしていてる言葉がどのような影響を及ぼすのかを調査しました。また、本研究においてはこのような言葉が、イントネーションが大事なのか、言葉そのものが大事なのかを検討するため、音響処理によって、イントネーションが同じとなるように調整された「あっ」

や「えい」という言葉について検討しました。

## 幼児にとっての「内集団」：競合場面に対する注視時間の観察を通して

担当者：前山航暉 対象：3～5歳児

私たちは、同じ出身地の人に親近感を感じたり、同じ歌手が好きな人を好きになったりすることがよくあります。そういった共通点を持つ相手を「仲間」と感じてしまう傾向は、社会や集団の成り立ちを考える上で重要だと考えられています。これまでの研究で、子どもや赤ちゃんの頃から、性別や言葉などについて、自分と共通点を持つ人物を好むことがわかってきました。しかし、どんな特徴を手掛かりにしてそういった好み成り立っているのか、どのような場面で好みの偏りが生まれるのか、などについてはまだわかっていないことがたくさんあります。そこで、いろいろな特徴をもつ2人の人物（1人はお子さんと同じ特徴を持っており、もう1人は異なる特徴を持っている）が競争する場面（すもう）の映像を見せた時に、お子さんがどちらをより長く見るか（注視するか）を調べる予定です。

## 大人の「沈黙」が幼児の反応に及ぼす影響

担当者：齊藤大葵 対象：5歳児

子どもは、相手からのコミュニケーションに応じて自らの振舞い方を変えます。例えば、大人に同じ質問を聞き直されると、こどもが自らの選択を変えてしまったりするといったことがこれまでの研究で示されています。しかし、そのような傾向は相手が発話した際にのみ見られるのでしょうか。沈黙によって暗に反対意見を相手に伝えることがあるように、沈黙行為もコミュニケーションの重要な要素の1つです。そこで本研究では、5歳児の振舞い方が相手の沈黙行為によって変わるのかについて、ゲーム形式の選択場面を設けて調査しました。

## 因果応報的ストーリーへの期待とその発達 ～幼児期・学童期に注目して～

担当者：山手秋穂 若藤礼子 対象：5歳児・小学生

私たちは人物の人物の行動に注目して、「悪いやつには「ばち」があたればいい」と思ったり、「日頃の行いがよかったから宝くじが当たった」といった話をしたりすることがあります。このように、本来、直接的な因果関係がないにもかかわらず、「善いことをすれば良いことが起こり、悪いことをすれば悪いことが起こる」とする「因果応報」の考え方は、さまざまな場面で見られます。このような考え方は、子どもでも見られるのでしょうか。そこで、主人公の行動やストーリーの中で起こる出来事が異なる4つの物語をお子さんに見ていただき、それぞれの物語の結末を「ハッピーエンド」と「バッドエンド」のどちらかからお子さん自身に選んでいただくことで、子どもが「因果応報」を期待するのかどうかを検討しました。



## 研究室からのお知らせ

- 私どもの研究室ではこれまで、0～6歳頃までのお子さんと保護者の方に調査のご協力をいただいております。0歳から1歳のお子さんを「赤ちゃん研究員」として、2歳から就学前のお子さんを「ちびっこ研究員」としてご登録いただき（4月時点で2歳になられているお子さんにつきましては自動的に「ちびっこ研究員」へと登録を移行）、就学年齢に達したお子さんは、「卒業」とさせていただいたうえで、ご連絡先などの個人情報は破棄させていただいております。
- 【変更】平成29年度より、就学年齢に達したお子さんであっても、保護者の方のご了承がいただけた場合に限り、小学校に入学された後は「子ども研究員」（小学校卒業まで）としての登録をご継続いただけるよう規定を変更させていただきたく考えております。今年度をもって卒業されるお子さんのいらっしゃるご家庭には「子ども研究員」登録のご継続のお願い（別紙）を送付しておりますので、詳しくはそちらをご参照ください。引き続きのご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- お引越しなどで登録内容（電話番号・住所など）に変更が生じた場合は、ご連絡いただければ幸いです。また、遠方へのお引越し等で登録の解除を希望される場合は、その旨をご一報いただければ大変ありがたいです。こちらで変更の手続きをさせていただきます。

九州大学 人間環境学研究院・教育学部 発達心理学講座  
橋彌 和秀（はしや かずひで）准教授  
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1（教育心理棟3階307号室）

TEL & FAX (092) 642-3143

✉ babykyushu@yahoo.co.jp  <http://www.babykyushu.org>

